

KSK

NPO法人 リンナップジャジャ  
LINK UP JAJA

# JAJA REPORT

Vol.  
20



Together,  
We Rebuild

ハリケーン被災者支援

被災障害者基金 ゆめ風基金 助成プロジェクト

OGA×JAJA 被災者支援

レゲエマンスオフィシャル「JAPAN JAMAICA LINK UP」

障害を持つ人と取り組む手織りプロジェクト「See mi yah!」

代表、一時帰国

チャリティーライブ「One Love Recovery Jamaica Live」

KSK 一九八四年八月二十日第三種郵便物承認

毎月五・十・十五・二十・二十五日発行

KSK増刊通巻3871号2026年4月30日発行 定価百円

## ハリケーン被災者支援

2025年10月28日にジャマイカを襲ったハリケーンメリッサ。被災から半年が経った今も、復興への道のはまだ遠いと感じています。自然災害が起こると、被災者が以前から抱えていた生きづらさや課題が浮き彫りになることを、東日本大震災や熊本地震の被災者支援を通して学びました。そして、ジャマイカのハリケーン被災者支援を通して、貧困世帯、障害者、高齢者など、社会的に脆弱な人たちが災害によってさらに過酷な状況に追い込まれてしまう現実を、改めて目撃しています。

NPO法人LINK UP JAJAは、被災前から貧しい人たちが暮らす地域で支援活動を行っているため、被災後に特に厳しい環境に置かれる人たちにピンポイントで支援を届けることができている。一方で、限られた体制の中、そのようなピンポイントの支援を行うだけで精一杯であり、他にも助けを必要としている多くの住民にまで手が回らないという現実があります。実際、支援リストに基づいて物資を届ける際には、「私も助けてほしい」「我が家も雨漏りしているので、そのトタン屋根を分けてほしい」といった地域住民からのSOSの声が絶えることはありません。ちょうど昨日もシングルマザーの女性から「身体障害を持つ娘のおむつがもう1枚もない」と電話があり、おむつを届けに行きました。お母さんは精神的なしんどさを抱えながら、一生懸命子育てをしています。安定した仕事に就くことが難しく、現在はおばあちゃんが黒柱となって母娘を支えています。

貧困は、少し頑張って抜け出せるものではありません。障害や高齢といったファクターがあるばかりではなく、貧困ゆえに、貧困から抜け出すために必要な教育や経験の機会を逃し、その結果、貧困のサイクルから抜け出すことが難しくなってしまうのです。先日、学校に履いていく靴がなくて通学できなかった男児に靴を買いましたが、交通費や昼食代がないため、彼は結局ほとんど学校に通っていません。両親の収入が上がる見込みがなく、交通費がないという問題が改善される可能性が低い中、では一体どうやって支援しようかと、コミュニティリーダーたちといつもそんな話をしています。そして「今は助けてあげられない」という結論が出ることも、残念ながら珍しくないのです。コミュニティリーダーは「私たちが支え続けられるわけではない。本人の頑張りなしに未来はない」と地域住民を励ましています。





ジャマイカの社会保障制度が改善されれば、国民の生活の質は確実に向上するはずですが、社会保障とは、「弱い立場に置かれている人の暮らしを、税金を使って社会全体で支えよう」という仕組みです。そしてそれは、「自分もいつか助けを必要とするかもしれない」という前提のもと、誰もが安心して暮らせる社会をつくらうという考え方でもあります。日本国民は、生活保護、障害福祉サービス、年金、母子支援などの社会保障制度を、何があんでも守っていかなければならないと強く感じます。物価が上がる一方で給料が上がらず、生活がどんどん苦しくなっていく状況は、日本もジャマイカも同じです。

半年前、目の前に広がる全壊した住宅や、屋根が吹き飛んで半壊した家屋の数々を見て、「LINK UP JAJAのような小さな団体に、一体何ができるのだろうか」と絶望的な気持ちになりました。そんな時、「支援者リストを作って一緒に活動しよう」と励ましてくれたのは、現地で協働するコミュニティリーダーでした。そして、日本の仲間や当法人の会員の皆さん、レゲエのつながりで支えてくださる皆さん、財団や基金の皆さんのご支援があるからこそ、現地で助けを必要としている人たちに支援を届けることができています。皆さまの温かいご支援に心より感謝申し上げます。そして、復興には何年もの時間がかかることを踏まえ、今後とも末永いご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 会計報告(2026年3月8日現在)

### 【収入】

#### 助成金

ゆめ風基金 緊急支援費	¥500,000
ゆめ風基金 個別支援3件	¥1,292,947
真如苑	¥300,000

#### 寄付金

個人や団体からの寄付	¥932,021
------------	----------

#### 売上金

JAJA CALENDAR売上金	¥863,790
------------------	----------

合計 ¥3,270,968

### 【支出】

食料品・生活必需品	¥337,889
旅費交通費	¥76,798
建材購入費	¥1,391,018
その他支援物資購入費	¥376,196
雑費	¥13,263
支払手数料	¥5,791
人件費	¥445,840
運搬費	¥15,300
消耗品	¥1,000

合計 ¥2,663,096

※カレンダーの売上金は障害者支援事業にも充てさせていただきます。

## ゆめ風基金助成金 住宅再建とトイレ新設プロジェクト ケース①目が見えない男性の自宅再建

マイケルさんは、13年前に病気で目が見えなくなりました。ジャマイカでは障害者が仕事につくことが難しいため、日中はビーチなどに歩いて行き、観光客や地域住民にご飯をもらうなどして命をつないでいます。白杖（はくじょう：目の不自由な人が使うつえ）さえ持っていないため、マイケルさんは木の棒をついて、交通量が多く未整備で穴ぼこだらけの道を歩きます。番犬として飼っている犬がマイケルさんを守って歩き、近づく人間に容赦なく吠えるので、近隣の人から「犬を連れた男」と呼ばれています。



彼が被災する前に住んでいた木造の住宅は、当時の政治家が口利きをして、アメリカの支援団体に建ててもらったそうです。その住宅が今回のハリケーンで全壊し、マイケルさんは瓦礫のトタンを立てかけてベッドを置き、その瓦礫の隙間で寝ていました。住宅再建となると金額が大きく、当法人の資金だけでは支援を行うことが困難と判断し、ジャマイカの社会保障省へ支援申請に行きました。しかし、行政支援がいつ、どのようなスケールで行われるか判明しなかったため「認定NPO法人 被災障害者基金 ゆめ風基金」に支援申請を行ったところ、速やかに助成決定して頂きました。

マイケルさんの暮らしは厳しく、普段は険しい表情をしていることが多いですが、「自宅の建設が始まると、今まで見せたことのない喜びの表情を見せた」とその場にいたコミュニティーリーダーの「ミス・キューティー」が嬉しそうに報告してくれました。LINK UP JAJAが揚げたてのソルトフィッシュ・フリッター（ジャマイカの天ぷら）を差し入れると、建設現場の片隅で美味しそうに食べていました。

建設現場では、被災地のベルエア地区に暮らす大工が施工に入っています。何事もスムーズに運ぶわけではありませんが「被災者支援事業が被災した住民の仕事づくりにもなっているから、多少の不便はあってもいい」と思うようにしています。そもそも「計画無しでは事を始められないよ！」とチームを励ますLINK UP JAJAが、建設に関わるのは初めてです。それでも、失敗から学び、ひとつのプロジェクトが終わるころにはみんな少し賢くなっています。被災者支援を通して地元の人と一緒に成長する喜びを噛みしめつつ、LINK UP JAJAもコミュニティーリーダーも少し疲れが溜まってきたので、上手に休みを取らなくてはと思っているところです。

マイケルさんの自宅の建設が完了したら、ニワトリを買う檻を作ることを検討しています。物乞いをして生活するマイケルさんに「何か収入を得る手立てはないか」と聞くと「以前ニワトリを飼っていた」と話したからです。「本当にできるのかな」と思いましたが、「彼が自宅周辺の草むしりをしている様子を見たら、ニワトリの世話くらい出来るって分かる。本人が出来ない部分は周りが助けたい」とミス・キューティーは自信をも

って答えました。人を信じられるって、素晴らしいことです。被災者や障害者の支援活動を通じて、ジャマイカの人たちにたくさんのお話を聞いています。



## ゆめ風基金助成金 住宅再建とトイレ新設プロジェクト

### ケース② 自宅が全壊してホームレスになった高齢者の自宅再建とバスルーム建設

高齢の障害者で一人暮らしだったミスター・ソニーの木造住宅もまた、ハリケーンで全壊しました。昨年11月に彼を尋ねた時「一体どこで寝ているの？」と尋ねると「この隙間にこうやって…」と、やはり瓦礫の隙間に潜り込んでいきました。涙を流すのがまともかもしれませんが、その光景のあまりの悲惨さに、JAJA・永村は「ノーサ！ありえない！」と言って大笑いしてしまったのです。日本だったら不謹慎と怒られそうですが、ミスター・ソニー自身も「そうやる？」と言って大笑いしました。

しかしそのまま帰るわけにいかないのです。ミス・キューティーに相談すると「大工に3万円払ったら、この瓦礫を再利用して小屋を建てられる」とのことで、翌日から建設を開始しました。ミスター・ソニーは本当に有難がって、大工が作業する傍ら自分でも瓦礫の掃除を始めました。このように迅速な対応ができたのは、日本の皆さんがカレンダー購入や寄付金でLINK UP JAJAを支えてくれたからこそです。大工さんが特別価格で素晴らしい働きをしてくれたことも、ここに記しておきます。この頃、地域はまだ停電していたので電動のこぎりも使えず、全て手作業で建ててくれたのです。

この住宅にはバスルームがなかったので、ゆめ風基金に建設費を申請し、先日シャワーとトイレを設置することができました。今まで外で身体を洗っていたのが、これからは自宅のバスルームを使うことができ、生活の質がアップします。貧困がなくなったわけではないけれど、尊厳のある暮らしに一步近づいただけでも、ミスター・ソニーも、LINK UP JAJAも、本当にありがたく思っています。



## 帰って来たOGA! JAJA×OGAの被災者支援

われらが「おがちゃん」ことOGA from Jah Worksがジャマイカに戻ってきました!「ジャマイカ子ども食堂」を通してベルエア地区の子どもたちと一緒に支援してきたOGAは、昨年末にも日本からジャマイカに送金してくれて、被災地の子どもたちのためにクリスマス会を開催することができました。子どもへのプレゼント、親御さんへの支援物資を配布することに加え、会場にジャマイカのラジオ局Irie FMでDJを務めるMC TEDDYを入れて音楽を流し、大人も子どもも楽しめるイベントとなりました(LINK UP JAJAホームページ内「JAJA REPORT vol.19」参照)。その後おがちゃんは当法人のチャリティーカレンダーをイベントで販売してくれるだけではなく、インスタグラムのサブスク収益、イベント出演時のMoney Pull Up(投げ銭)を貯金し、およそ16万円の資金を持ってジャマイカに戻ってきてくれました。戦友が助けに来てくれたような気持ちで、本当に嬉しかったです!

ジャマイカではトタン屋根がどこの工務店でも売り切れになるほど、本当にたくさんの家の屋根が飛んでしまいました。雨が降るたびに濡れてしまう被災者を支援するため、おがちゃんと一緒にトタン屋根を求めて工務店を回るところからスタート。隣の県まで車を走らせるなどしてようやく資材を確保し、無事に被災者のもとへ届けることができました。

最初にトタンを届けた女性は「小学生の息子が、今でも雨が降ると体を震わせて怯える」と、子どもが受けたトラウマについて話してくれました。被災者の心の傷を癒すには、まずは安心して暮らせる環境を整える必要があると、同行したコミュニティーリーダーのアデジョンさんが語りました。

2人目の被災者は、ハリケーンで木造住宅が全壊し、生後3か月の子どもと共に母親の自宅に身を寄せています。しかし母親の自宅も被災して雨漏りがしているため、とても大変な状況でした。おがちゃんの資金で購入したトタンを心から喜びながら、物価の高さと生活苦についても語ってくれました。

彼女の母親はこころの病を抱えているようで、辛そうでした。慢性的な病気の症状がハリケーン被災をきっかけに悪化したのだと思います。明るく陽気なイメージのあるジャマイカですが、精神的につらい思いをしている人は、実はハリケーン以前からたくさんいます。近頃ジャマイカでも「メンタルヘルス」という言葉を耳にするようになりましたが、それだけ心の病気が社会問題化していることの現れでもあります。「発展」の陰には生きづらさの増加があり、これはどの国を見ても共通するのではないのでしょうか。

トタン屋根支援に次いで、ベルエア地区で養鶏をしていた被災者2名にも支援を届けました。彼らが飼っていた数百羽のニワトリがハリケーンで全滅し、収入が途絶えて生活が困窮していたため、この人たちにヒヨコ50羽と餌を6袋ずつ寄付しました。OGAがヒヨコと対面して萌える瞬間や、受け取った被災者が「この支援が生活を立て直す大きなスタートになる。本当にありがとう!」と喜ぶ様子を、Jah WorksのオフィシャルYouTubeチャンネルで観ることができます。ぜひご覧ください。



## レゲエマンスオフィシャルイベント「JAPAN×JAMAICA LINK UP」

知る人ぞ知る、長年ジャマイカに暮らしている「オカマイ」と岡本マイさんと、レゲエプロデューサーのGacha(ガチャ)さんが企画した、日本とジャマイカをつなぐイベント「JAPAN JAMAICA LINK UP」が、ジャマイカのレゲエ月間(Reggae Month)のオフィシャルイベントとして開催されました。この模様が地元紙 Jamaica Observer に紹介されています。そして来年2月18日にも、LINK UPイベントの開催が決定!この際にジャマイカ旅行を企画してみたいは?

出典: Jamaica Observer (解説を追加し添削した翻訳記事)  
Jamaican and Japanese acts excite at Japan, Jamaica Link Up  
BY KEVIN JACKSON Observer Writer, February 22, 2026

ジャマイカと日本を約16年間行き来しながら、オカマイこと岡本氏はレゲエへの情熱を育んできた。長年にわたりアーティストの日本ツアーの企画・運営に携わるとともに、ジャマイカ文化の普及活動にも取り組み、日本人にジャマイカを訪れてその魅力を体験するよう呼びかけてきた。

2026年2月19日、彼女は在ジャマイカ日本大使館と提携し、首都キングストンのDubwise Caféで第1回「JAPAN×JAMAICA LINK UP」を開催。毎年2月に祝われるレゲエ月間の一環として行われたこのイベントでは、日本とジャマイカのエンターテイナーやサウンドシステムが出演し、両国を文字通り「LINK UP」させる(繋ぐ)一夜となった。

4冊の著書を持つ岡本氏は次のように説明する。「ジャマイカと日本の音楽業界は、他に類を見ないほど強い結びつきを持っています。その関係性や経済効果は、世界的に見ても極めて稀有なものです。日本とジャマイカの関係は、長年にわたるレゲエを通じた継続的な交流によって築かれてきました。新型コロナウイルス感染症の影響や経済的な理由により、両国間の往来は一時的に減少しているように見えました。しかし、2024年には日本とジャマイカの外交関係樹立60周年という節目を迎えたこともあり、両国の関係をさらに活性化させるため、レゲエを通じた日本大使館とのコラボレーションイベントを開催することにしました」

イベントでは、Ray、Chehon、775といった日本人アーティストがパフォーマンスを披露。また、2023年のJamrock Cruise Sound Clashで優勝した日本のセレクトアーティストJah Works OGAが選曲で会場を盛り上げた。さらに、ジャマイカの老舗サウンドStone Loveをはじめ、グラミー賞ノミネート歴を持つJesse Royal、Pinchers、Junior Reidなどジャマイカのアーティストたちも素晴らしいステージを見せた。

岡本氏は、レゲエとの出会いについてこう振り返る。「16歳のとき、友人にボブ・マーリーのアルバムを聴かせてもらったのが、初めてレゲエに触れたきっかけでした。かつて付き合っていた人が膨大なレゲエコレクションを持つ日本人DJで、彼からいつもジャマイカの話が聞かされていましたし、私は毎週のように彼のライブに通っていました。だからレゲエは、いつも私の身近にあったんです」

これまでにJesse Royal、Kabaka Pyramid、Lila Iké、Protojeといったアーティストの日本ツアーのコーディネートを手がけてきた岡本氏。今回のイベントは、日本とジャマイカ双方の来場者から大きな反響と支援を得たことから、今後も毎年開催していく予定だという。



## See mi yah! 障害のある人たちと取り組む手織りプログラム

2023年にセントアン県内にある特別支援学校のろうかの片隅で始まった手織りプログラム。障害を持つ卒業生が仕事に就くことができず、社会との繋がりを持たず孤立していることを問題視し、彼らの居場所づくりとして始めたこの取り組みも、3年目を迎えました。See mi yah!とは、手織り製品のブランド名で「シミヤ」と発音し、ジャマイカの言葉で「こっち見て!」という意味です。社会から忘れられがちな障害を持つ人たちに光を当てたいという思いから、そうネーミングしました。

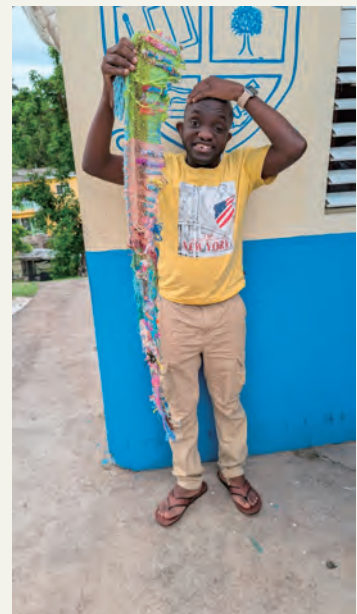
初めはあまり手織りに興味を示さなかったデマリオが、今では自ら織り機の前に座って布を織り始めるようになりました。また、色彩センスの良いシャニースは手織りの技術をどんどん向上させており、将来良い職人さんになると期待しています。現在、月曜と水曜の午前9時から午後2時半まで行っている手織りですが、シャニースは1日でスカーフ1本を織り上げるまでになりました。1枚織りあがる度に手にする工賃が何よりのモチベーションですが、学校の教員や家族に「すごいね!」と褒めてもらい、自信がついたことも大きいのでしょうか。

シャニースのお母さんは先日病気で亡くなり、今はお父さんと暮らしています。障害を持つ人がジャマイカで生きていくのはとても大変なので、お母さんの訃報を聞いた時、この先シャニースはどうなるのかと心配しました。しかし、お父さんとも良い関係を保っていたようで、ステップマザー（ママ母）にもとても可愛がられ、幸せそうに暮らしている様子を見て安心しています。デマリオのお母さんはシングルマザーで、暮らしは楽とは言えませんが、自閉症を持つ息子を心から愛し、叔母さんにも可愛がられて、デマリオは穏やかに過ごしています。これまで出会った障害を持つ若者の中には、とても過酷な環境に置かれている子たちも少なくありません。手織りプログラムに通うメインの2人が安心して暮らせていることを喜ぶ一方で、厳しい生活を送る他のメンバーに思いを馳せ、時のため息をつくこともあります。

昨年6月に支援学校を卒業し、その後行き場がなく家にひきこもっている子たちから「ミス・ナツーム（JAJA・永村）、私も手織りプログラムに通いたい!」と電話をもらうことがあります。しかし、現在は支援学校の教室を間借りして小さなスペースで行っているため、これ以上人数を増やすことが難しい状況です。また、支援員を固定して雇うことが叶わず、受け入れ人数には限りがあります。さらには、親御さんの経済状況が厳しく、交通費が捻出できないという問題もあります。現在手織りプログラムでは、参加者の昼食代を当法人が負担していますが、物価の高騰により昼食代も値上がりし、昨年末に取り組みを再開して以降は、参加者の交通費を親御さんに負担していただくようお願いしています。

それでも「小さな変化なくして社会の変革はない」と信じて、地道にこの取り組みを続けています。たくさんの人を支援してあげられないことは切ないけれど、シャニースとデマリオが社会参画を果たし、精神的な自立、経済的な自立にほんの一步近づいたことは、とても尊い変化だと思っています。また、親後さんや教員が彼らを見る目も変わってきました。障害当事者が「ただお世話される人」から「自分で何かできる人」と認識されるようになったのです。

この変化は障害者本人の中でも確実に起こっています。表情が豊かになり、言葉数が増え、何かをしたいと自分から訴えるようになりました。「セルフエンパワメント」とは、これまで抑圧されていた人が自身の力に気づき、自己決定をして、自分らしい生き方を実現するプロセスです。シャニースやデマリオが経済的自立を果たすことは今のジャマイカの制度では困難ですが、セルフエンパワメントされて生きる力を育む彼らを、LINK UP JAJAは誇らしく思っています。日本の皆さんの力も借りながら、この障害者支援プログラムを発展させ、障害を持つ仲間の受け入れを少しずつ広げていきたいと思っています。未永く見守り、応援いただけると嬉しいです。



07

## 代表の永村が一時帰国します！

昨年の夏は日本国内のレゲイベントに多数出店し、たくさんの方とリンコップする(つながる)ことができました。日本では「なっちゃん」、ジャマイカでは「ナティー」ことNPO法人LINK UP JAJA代表の永村夏美が今年も一時帰国し、5月末から8月末を日本で過ごす予定です。

この夏も、日本でたくさんの方と出会えることを楽しみにしています。イベント出店のお誘いはもちろん、学校や職場での勉強会、地域イベントでの講演なども臨機応変に対応しますので、お気軽にお声がけください。また、当法人が運営するCHAKA CHAKA online store(BASE)に、ジャマイカから直送したクラフトアイテムや職人手編みの帽子なども追加していますので、ぜひチェックしてみてください。皆さんの温かい応援を心からお待ちしています！



CHAKA CHAKA online store



※AIで生成したイメージ画像です。

08

## チャリティーライブ「ワンラブ・リカバリー・ジャマイカライブ」

国際開発業務の任期を終えた栗本愛さんは、ハリケーン・メリッサが上陸した2025年10月28日にジャマイカを出国し、日本へ帰国する予定でした。ハリケーンの影響で飛行機が飛ばず帰国が延期となった栗本さんは、ジャマイカが受けた被害が甚大であること、長期的な被災者支援が求められるであろうことを感知し、すぐさま「帰国する自分に何ができるか」を模索しました。ハリケーンが過ぎ去ったその夜、首都キングストンから、日本に長年暮らすジャマイカ人シンガーの「マカ・ラフィン」ことデイブ・マカノフさんにチャリティーライブの企画を持ち掛け、NPO法人LINK UP JAJAを寄付先にすることを提案してくれました。1週間後に日本に帰国した栗本さんは実行委員会を立ち上げ、様々な方の協力を得て、One Love Recovery Jamaica Liveが2026年4月3日に東京都内で行われました。

出演してくださったアーティストの皆さん、裏方でボランティアワークをしてくださった皆さん、協賛やご後援いただいた団体や企業の皆さん、会場に足を運んでくださった皆さん、本当にありがとうございます。チャリティーライブの様子や寄付金の使途については次号のJAJA REPORT内でご報告いたします。





皆さんのご支援、ありがとうございます！





# JAJA会員さん大募集!

NPO法人LINK UP JAJAを支えてくれている皆さん、本当にありがとうございます。

お陰様で、お陰様で、2020年12月に発足したNPO法人LINK UP JAJAは2026年4月1日を以って7年目(令和8年度)を迎えました。法人の活動は、皆さんから頂く年会費や寄付金を利用して運営しています。年会費は3,000円で、会員の皆さんには年に4回会報「JAJA REPORT」を郵送し、法人の活動についてご報告しています。

NPO法人LINK UP JAJAの年度は毎年4月から翌年の3月で、年会費は銀行振込やクレジットカード決済でも納めて頂くことができます。ジャマイカでの取り組みを続けていくため、また、取り組みを発展させ持続可能な形にしていくために、皆さんの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

## 銀行振込で寄付金や会費を納めてくださる皆さまへ

ご入会をご希望される方は年会費3000円をお振込み頂き、info@linkup-jaja.org にメールをお願いします。本文に【①振込名義人 ②振込金額 ③お振込日 ④会報送付先のご住所とお名前 ⑤領収書を希望される方は「領収書希望」とご記入ください。領収書はPDFファイルで送付させていただきます。**メールを頂けませんと会報を発送することが出来ませんので、ご注意ください。**温かいご寄付も下記口座までお願い致します。

振込先: 楽天銀行 第三営業支店(支店番号 253)

(普通) 7194483 エヌピーオーハウジンリンコップジャジャ

## クレジットカード決済で楽ちん! Syncable

NPO支援のプラットフォームSyncable(シンカブル)では、クレジットカード決済で会費を納めて頂ける他、自動更新を選んで頂くと毎年度自動的に会費を納めて頂くことができます。NPO法人LINK UP JAJAの年会費(3,000円)の引き落とし日は毎年3月1日です。単発の寄付をして頂くこともできます。

<https://syncable.biz/associate/LINKUPJAJA>

Syncable



## ～会員登録の流れ～

①サイトにアクセス

②「年会員になる」を選択

③必要事項を記入

④お支払い  
会員登録完了!



## 編集人: NPO法人LINK UP JAJA

コロナ禍真ただ中の2020年、ジャマイカを支援するため立ち上がる。コロナによる経済的被害に苦しむものづくり職人を「フェアトレード事業」という形で応援。2022年、仕事に就けず貧困で社会との繋がりを持ちづらいジャマイカの障害者を支援するため事業を立ち上げ、活動の柱とする。障害を持つ人と手織りやアートに取り組み、彼らが社会から排除されず、地域の中で認められて自分らしく生きることを目指して支援している。

NPO法人LINK UP JAJA(リンコップジャジャ)

大阪府大阪市鶴見区鶴見2丁目22番5-603号

info@linkup-jaja.org

WEB <https://linkup-jaja.org/>

NPO法人LINK UP JAJA

リンコップジャジャ

@LINKUPJAJA